

「河川砂防技術研究開発」(平成24年度採択)

事後評価結果

研究テーマ名	研究代表者	評価
沿岸低平地における河川, 下水道, 海岸のシームレスモデルに基づく実時間氾濫予測システムの構築 (研究期間: H24年~H26年)	東京大学 教授 佐藤 慎司	A
<研究概要> 鶴見川流域を対象として、河川・下水道・海岸の各モデルを氾濫モデルを介してシームレスに結合し、下流部沿岸低平地における浸水現象を実時間で予測できるシステムを構築した。レーダー雨量観測や気象庁GPVを活用するとともに、分布型流出モデル・高潮モデルとの結合、小排水区のランピングなどを行うことにより、実用的なシステムを構築できた。		
<事後評価コメント> 河川、下水道、海岸におけるそれぞれの氾濫因子を考慮した氾濫予測モデルの構築、氾濫因子の予測値に基づく実時間氾濫予測システムが開発されたことは革新的であり、河川管理と下水道管理の連携を進めるためのツールとなり得るという点が評価できる。研究目的は達成され、十分な研究成果があったと言える。 今後、実務的な課題解決にどのように活用していくのかの検討、観測と予測の比較によるモデルの更なる検証、計算時間の更なる短縮、他流域への展開などについて、引き続き研究を進め、現場の実務に還元されることを期待する。 なお、今後さらに研究を進展させる過程において、計算プログラム等の成果の一部をオープン化することについても検討することを期待する。		

※評価基準

- A: 研究目的は達成され、十分な研究成果があった
- B: 研究目的は概ね達成され、研究成果があった
- C: 一定の研究成果があった
- D: 研究成果があったとは言い難い